

自然災害への備え

1. 地震・津波対策

2011年3月11日に発生し、大きな被害をもたらした東日本大震災をきっかけに地震や津波への対応、BCPの見直しを行いました。また夜間、休日を想定した訓練も行い、いつ地震が発生しても同じレベルで対応ができるよう取り組んでいます。このような対策が実を結び、2016年4月に熊本地震が発生し、富士フィルム九州(熊本県菊陽町)が甚大な被害を受けましたが、人的被害ゼロ、わずか1ヶ月で全生産ラインを復旧させることができました。そしてこの時の知見を社内で共有、展開することで、地震への備えを進めています。

2. 異常気象対策

近年、台風や大雨により洪水や土砂災害の他、停電などライフラインが停止する被害が増えています。

富士フィルムグループでは主要な生産拠点において、雨量などの気象予測情報を入手し、また近接の河川の水位を監視することで事前にアラートを出し、水門管理や土嚢の設置など先手の対応ができる降雨アラートシステムを構築しています。

また停電対策として自家発電設備や非常用発電機を設置するなど、電源喪失による工場の操業停止を回避する対策を進めています。